

中部環境計量士会だより



2015年7月5発行

第17号

【写真】中国の環境保全切手

ひどい環境汚染に悩む今の中国、でも彼らが望んでいるのはきっとこんな環境なのです。

(写真と文：岡本会員提供)

1 2014年度総会報告

中部環境計量士会の総会及び講演会が2015年5月9日(土)午後2時から大同特殊鋼(株)健保会館で44名の会員の参加(委任状提出者を含む)により開催され、5議案が可決されました。以下にそれらの内容をご紹介します。

○ 第1号議案 2014年度行事報告

(2014年度に実施した主な事業) (詳細は会誌「緑野」第53号に記載)

(1) 総会 2014年5月17日(土) 大同特殊鋼(株)健保会館

(総会の後に予定されていた講演会は、講師の都合により下記の勉強会開催時に変更されました。)

(2) 見学会及び懇親会

2014年11月7日(金)

見学先：あいち臨空新エネルギー実証研究エリア(午前)及び中部国際空港エネルギーセンター(午後)

参加者：15名

(3) 講演会・勉強会及び懇親会

2015年2月14日(土) 大同特殊鋼(株)健保会館

(講演会・勉強会参加者16名)

【講演会】

演題：「地球環境問題と風力発電」

演者：(公益)名古屋産業科学研究所 上席研究員、元名古屋大学客員教授、鳥取大学名誉教授、日本風力エネルギー学会副会長 林 農 氏

【勉強会】

テーマ①：「エクオールと女性の健康」

話題提供者：大野良文 氏(会員)

テーマ②：「オカラサイレージ」

話題提供者：吉田信夫 氏(会員)

(研修会終了後、懇親会を開催)

(4) 会員勧誘のためのチラシ配布

2015年3月1日(日) 計量士国家試験会場(名古屋工業大学)にて配布

(5) 「中部環境計量士会だより」の発行(年2回)

第15号、16号 (2014年7月10日、12月9日)

(6) 会誌「緑野」の発行

第53号(2015年3月25日)

印刷：160冊

配布先：会員(会費納入者)、関係官公庁・団体及び計量証明事業者(愛知県環境測定分析協会会員事業者へは総会時に配布)

(7) ホームページの更新

(8) 会員あて情報の提供

講演会等の情報を会員(メール登録者)あて配信

(9) 会員異動(敬称略)

《入会》(2名)

伊藤 義泰、岡本 卓郎

《退会》(3名)

伊藤 元宏、船坂 隼三、伊東 健二

○ 第2号議案 2014年度収支決算報告

2014年度 収支決算報告書			自 2014年 4月 1日 至 2015年 3月31日	
1. 収入の部			単位:円	
科目	予算	決算	増減	備考
会費	272,000	216,000	-56,000	会費52名+過去の未納金2回
その他の収入	0	18	18	利息
前年度繰越	30,052	30,052	0	
前年度繰越	0	60,000	60,000	ホームページ積立金
合計	302,052	306,070	4,018	
2. 支出の部				
科目	予算	決算	増減	備考
総会費	10,000	7,168	-2,832	会場費、飲料代(ペットボトル)
役員会費	15,000	12,410	-2,590	交通費、会場費
印刷費	130,000	570	-129,430	コピー代のみ (緑野53号160冊印刷代は 2015年度に支払う)※
通信費	18,000	17,604	-396	緑野発送費、総会出欠はがき、 封筒、タックシール
勉強会・見学会費	50,000	45,322	-4,678	講師謝礼、会場費、飲料代、 手土産代
事務局委託費	20,000	20,000	0	愛環協に支払
ホームページ管理費	17,000	11,016	-5,984	インターネット管理
HPリニューアル積立費	0	60,000	60,000	(積立金累計60,000円)
原稿料	25,000	17,000	-8,000	だより、緑野52号
雑費	4,000	3,013	-987	用紙、プリンターインク(黒)
予備費	13,052	5,327	-7,725	プリンターカラーインク(勉強会 資料用)
次年度繰越	0	106,640	106,640	
合計	302,052	306,070	4,018	

※緑野53号の印刷代と原稿料144,272円は2015年度に繰り越しとした。

第3号議案 2015年度役員選出

(敬称略、五十音順)

会 長：阪野 二郎

副会長：佐野 教信、黒木 清篤(新任)

幹 事：石川 創、石原 好実、大井 民男、岡本 卓郎(新任)、大蔵 昭英、
鈴木 全、田中 義身、新谷 良英、山田 雅英(新任)、由利 富士雄、
吉田 信夫、渡邊 永策

会 計：近藤 浩子、杉浦 世紀子

会計監事：小林 良二

○ 第4号議案 2014年度行事計画

(1) 講演会

演題：「有害物質使用特定施設及び有害物質貯蔵指定施設に係る構造基準等の
規制制度について」

演者：愛知県環境部水地盤環境課主任（規制・土壌グループ）滝口 徹氏

(2) 見学会（候補地）

候補1 三信鋳工株式会社（愛知県北設楽郡東栄町）

候補2（独）日本原子力研究開発機構 東濃地科学センター

候補3 三島市源兵衛川 ホタルフェスタ

(3) 勉強会・懇親会

会員からの話題提供と懇親会

(4) 「中部環境計量士会だより」の発行

年2回 発行予定

(5) 会誌「緑野」の発行

年1回 発行予定

○ 第5号議案 2014年度収支予算

2015年度 収支予算書				自 2015年 4月 1日
				至 2016年 3月31日
				単位：円
1. 収入の部				
科目	2014年度予算	2015年度予算	増減	備考
会費	272,000	256,000	-16,000	4000円×64名
その他の収入	0	0	0	
HPリニューアル積立費	0	60,000	60,000	(積立金累計60,000円)
前年度繰越	30,052	106,640	76,588	緑野53号印刷代、原稿料は含まない
合計	302,052	422,640	120,588	
2. 支出の部				
科目	2014年度予算	2015年度予算	増減	備考
総会費	10,000	10,000	0	
役員会費	15,000	13,000	-2,000	
印刷費	130,000	250,000	120,000	コピー代、緑野53号印刷代、原稿料 緑野54号印刷代、原稿料
通信費	18,000	16,000	-2,000	緑野等の送付、タックシール
講演会・勉強会・見学会費	50,000	30,000	-20,000	
事務局委託費	20,000	20,000	0	
ホームページ管理費	17,000	15,000	-2,000	
HPリニューアル積立費	0	10,000	10,000	(積立金累計10,000円)※
原稿料	25,000	40,000	15,000	緑野53号・54号、たより
雑費	4,000	4,000	0	用紙、プリンターインク
予備費	13,052	14,640	1,588	
合計	302,052	422,640	120,588	

※ 緑野53号の印刷代が予算を超過したためHPリニューアル積立費を取り崩した。

最新技術で迫る環境問題～テクノロジーで環境を読み解く

6月26日大阪にて盛況の中で開催されました。

講演1 今藤夏子 「湖水から読み取る生き物情報 — 環境DNAとその解析技術 —」
一般的な湖沼の生物調査では、捕獲や、目視による生物名の特定と個体数の計測を行い、定量的かつ定性的なデータを得る。これは専門的と大きな労力を要する。最近、湖沼の水に含まれる様々な生物のDNA（環境DNA）から生物の情報が得られることが分かってきた。現在、霞ヶ浦の環境DNAを長期モニタリングに応用出来るように開発中。

講演2 山村茂樹 「ヒ素で呼吸する微生物 — 土壌浄化技術への応用を目指して —」
ヒ素は自然環境中のいたるところに微量ながら存在する。そしてヒ素を使って呼吸する微生物（ヒ素呼吸細菌）も存在する。土壌粒子に強く吸着・結合するヒ酸をヒ素呼吸細菌と助剤を使って亜ヒ酸に還元、水に溶出・除去する。（再吸着等の処理も）現在までの結果と展望を示す。

講演3 前川文彦 「有害化学物質と心の発達 — 心の萌芽への影響を評価する—」
近年、社会背や行動柔軟性に支障きたす発達障害などの症状を示す小児の増加が報告されており、何らかの環境要因が発症率増加に関わっている可能性も指摘されている。発達期の脳に影響を与える化学物質の有害性を評価する手法を構築する取り組みの報告。動物にもヒトの心の萌芽ともいえるような神経回路が存在すると仮定し、化学物質をモデルや神経系の培養細胞に暴露した後、後発的な行動異常、脳や細胞の構造・機能異常を観察することで、ヒトへの影響予測が可能な発達神経毒性評価法の開発中。

講演4 田中敦 「カメラがとらえた摩周湖の底センサーがとらえた摩周湖の水」
民生用に開発された小型カメラと耐圧容器の組み合わせで、水深200mが観察され、栄養塩濃度の極めて低い摩周湖でも、生物の活動が湖底にまで及んでいることがわかった。温度やクロロフィルから発生する蛍光などを感知するセンサーを備えたデータロガーは真冬でも大風の日でも水温やクロロフィルなどのデータを刻々と続けることが出来るようになり、結果として水中の植物プランクトンの年間消長や、鉛直方向の水の動きと透明度との関係が明らかになってきた。

講演5 今泉圭隆 「多媒体モデルを用いて放射性物質の動きを予測する」
福島第一原発事故後様々な場所・媒体（物質が存在する場）・方法で環境実態調査や関連研究が行われ、汚染地域において中長期にわたって環境中に残存し、空間線量率に寄与する核種は主にセシウム137ということが分かってきた。さらに、放射性セシウムには土の粒子に吸着しやすい性質があり、降雨などの際に土砂などとともに環境中を動くことが分かった。化学物質の環境中の挙動を予測する場合、環境動態シミュレーションモデルは強力なツールになる。国立環境研究所では大気、陸域、海域の3グループで環境動態モデリング研究を進めている。それらの研究から陸域に沈着したセシウム137の約7割は森林域に沈着し、その大部分は地表面に長期間留まることなど、その挙動を定量的に把握する

ことが出来る陸域での予測には、多媒体モデル「G-C I E M S」が使われる。

＜ポスターセッション＞

- 1) 地域スナップショットモデルによる地方自治体の将来社会・環境ビジョンの構築
- 2) 災害廃棄物に混入したアスベストを迅速に測定する
- 3) 陸域生態系の炭素収支を直接測る ―環境の変化で何が変わる？―
- 4) 加速器質量分析装置で見る大気中の炭素循環の世界
- 5) 地球温暖化を「見える化」する様々な方法 第2報
- 6) 飲食店廃グリースからのデュアルバイオ燃料製造技術の開発
- 7) アジア地域における使用済み電気電子機器の管理
- 8) 食物連鎖のシミュレーションで化学物質の生態系への影響を評価する
- 9) ナノ材料の2つの神経系毒性評価
- 10) 水銀の全球多媒体モデルの構築と海洋生物への移行予測―水銀に関する水俣条約の有効性評価にむけて―
- 11) 最先端の観測技術で越境大気汚染の問題に挑む ―北部九州におけるPM_{2.5}の化学組成計測―
- 12) 霞ヶ浦の水中に存在するリンの化学組成を診る ―植物プランクトンとリンの化合物組成との関係―
- 13) 地域エネルギー資源を活用した復興まちづくりの計画支援に関する研究
- 14) ジフェニルアルシン酸を投与したラットにおけるヒ素の生体内分布と排泄
- 15) 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）―詳細調査を開始しました
- 16) アジアのマングローブ湿地を対象とした自然再生に関する支援技術の開発と適用―放置されたエビ養殖池をマングローブの森へ―
- 17) 全国湖沼の漁業資源量の長期的な変化 ―魚食性外来魚の侵入により資源量が減少
- 18) 生態系変動を詳細に見つめる技術 ―山から海まで―
- 19) 熱帯雨林におけるオゾン層破壊物質の動きを測る技術

以上です。

3 掲示板

○ 見学会について

平成27年10月20日（火）に開催することが決まりました。見学先は北設楽郡東栄町の三信鉱工㈱のセリサイト（絹雲母）坑道と製造工場が予定されていますが、遠隔地のため参加者数の事前確認中であり、まだ確定ではありません。詳細は決まり次第お知らせします。多数のご参加をお待ちしています。

○ 会誌等への投稿について

会誌「緑野」、「たより」への投稿やご意見・要望等をお寄せください。会員相互の連絡や意見交換にもご利用いただけます。